

芸大通信 ●

2006年6月発行・Vol.006

京都市立芸術大学広報誌

サマーアートスクール開催のお知らせ

京都市立芸術大学では、京都市民及びその周辺に在住する方を対象に京都市立芸術大学サマーアートスクールを開講します。この講座は、本学が長い歴史の中で蓄積した専門的・総合的な芸術教育機能を活用し、広く社会にそのノウハウを提供するもので、専任の教員が直接ご指導いたします。



学長

中西進

いま、私たちの美術スタッフが、新しいビジョンの下に、皆さんの生活に広い美的展望を提供しようとしています。

題して、サマーアートスクール。

すぐ近くまでやって来た夏に向けて、その間中、夏といっしょにたくさんの人々ともども、美術を楽しもうという試みです。

もちろん開学以来、もともと情熱に燃えた、オールスタッフのラインアップによります。

まずはそれぞれの専攻を異にする分野が掲げたタイトルを御覧下さい。「日本画を描く」「マティスに学ぶ人物画」「カードは手作りが楽しい」「漆粘土によるアクセサリー作り」そして「美術批評誌を作りましょう」などなど。どれひとつをとっても思わず体が動いてしまうでしょう。全部に参加したい！そう思う人もたくさんいるにちがいないと思います。

すぐれた芸術家たちが視線を市民の生活感覚に合わせて、美術とはこんなに身近で、自分自身が創り出すものだとということ、訴えようとしているのです。

重々しい美術館の、ガードされたケースに陳列されているようなものではないのです。人間が人間として生きている感覚を表現するものが美術なのですよ。

この講座を担当する教員は、いうまでもなく世界的に活躍する日本の代表者や、各界で将来を大きく期待されている気鋭の人たちです。担当教員の欄を御覧下さい。展覧会のカタログでよく目にする名前、新聞その他でいつも話題になる名前、「あ、あの時作品にびつくりした人だ」と思うような名前が並んでいるでしょう。

この、本学が誇るべきスタッフが、総力をあげ皆さんと、創作の喜びを共有しようとしています。参加されたら、ひそかに先生の体や心の動きを見つめてみて下さい。きつとびつくりするような示唆があるはずですよ。

たとえばあるスタッフは1年間の太陽の動きを観察して、その軌跡を視覚化しました。その結果はあの無限大の記号でした。これこそ普遍なるものの基本にちがいません。彼はそれを基にあらゆる造型に挑んでいます。

一個の作品は、そのような背景を、必ず秘めているものです。講座の折々にはこうしたダイナミズムも、垣間見られるはずですよ。

しかも本学にお出でいただきたい方は、それぞれの目的によりつつも、限りなく広い幅をもつ人々です。

受講対象者という欄を見ると、「幼稚園から小学生とその保護者」「親子ペア」という低年齢層から「社会人」まで何と幅広いことでしょうか。いま私は、こうした人たちが行き来する夏のキャンパスを思い浮かべています。わくわくするような光景が広がります。皆さんがそれぞれ参加の楽しみで、胸をいっぱいしている姿も感動的です。

とりわけ「中小企業のオーナー又は企業担当者等」を希望しているグループには、驚きました。目標をはっきりと定めて、その人たちの活用実践を手助けしようという意図です。

これは、すばらしい勇気をあたえるだろうと、すぐ思いました。いま世上では産学共同とか産学公の連携とかの掛け声がさかんです。学生のインターンシップさえ、行われる世の中です。こうした社会に大学が敏感であることが、ひるがえって研究教育を大いに刺激します。多数の参加者を願わずにはいられません。

そして、最後に、定員の欄も私を感動させました。40名から8名まで。徹底的な少人数ぶりです。

なかんずく、5名、6名でも開講しますというグループには驚きました。これらの講座はたしかに技術をとまなうもので、あまり多数ではできませんが、それにしても、たった5、6人の人のために真夏の盛りに汗をかこうという意欲に、私は頭の下がる思いがしました。そのとおり、美への追求は志を描いてはありえないのだと、つくづく思いました。

また20家族という家族への呼びかけにも、注目してください。現代、核家族化から家族の空洞化が取り沙汰され、一方学校教育がとかく問題を抱える中で、何が学校教育に必要かと問われた時、小泉首相は「言きつぱりと」「家庭教育」と答えました。そのような世相の中で、いまこのグループは「家族で！」と呼びかけています。すばらしいこの声を、聞きとめてください。この講座を起爆剤として、日本の家族は蘇るかもしれない。

いや、全アートスクールの目標は、美術を中心として人間が人間らしく生きようという点にあります。この試みを「生きる喜びへの招待」として、皆さんに提供します。



美術学部長／美術研究科長
潮江 宏三

美術学部では、本年度から、夏休み期間を利用して、子供から大人まで、初心者から経験者までという幅広い層を対象としたサマーアートスクールを芸術教育振興協会との共催で開催します。これは、美術学部の日頃の教育研究活動のノウハウを広く市民に伝授して、楽しみつつ学んでいただくことで社会貢献を果たしたいという願いから、それぞれの専攻が独自の企画を持ち寄って、構想されたものです。

これまでは、学外者が美術学部の教育研究活動の成果を体験していただくと言っても、特に実技科目に関しては、年に1回1講座が開催される市民公開講座等制度しかなく、年間授業の聴講生・科目等履修生に関しては、学科目の履修に限られてきました。そのこと自体は、芸術大学における実技教育の継続性と集中性の重要性を考えるとやむをえないことではありました。

今回、二年以内には実技棟にも空調設備が設置され、夏の暑さが改善されることを期に、美術学部では、夏季休暇期間に思い切ってアトリエを一般にも開放し、多方面の分野において実技教育の現場を体験していただく機会を設定することとしました。このサマーアートスクールは、すでに述べましたように、芸術大学の美術学部が蓄積をしているノウハウを通して教育と享受という両面で社会貢献を果たしたいというのが第一の眼目です。その際に、重視している事柄は、ある面でさまざまな困難があり実施し難かった実技制作指導を今回は敢えて分厚くかつ多方面で実施し、それを参加者に実制作の現場で体験していただくことにあります。わたしたちにとっては、ともすると特別視されてわかり難くなっている、芸術教育の実際と意義を体験を通して広く市民の方々に理解していただくことも大きな目標です。そして、こうした地道な活動が、やがて美術制作への関心の増大や美術愛好者の基盤拡大に結びつくことを願っているのです。かつて、イギリスにおいて、労働者用の夜間の美術学校からカムデン派が誕生したように、短期間で、限られた内容ではありますが、充実した内容が計画されていますので、その体験からヒントを得て、芸術を志す人々

が、芸大のサマーアートスクールから出てくることを密かに夢見しています。

このサマーアートスクールの個別の詳細は、本学のホームページに掲載されていますし、教務課がリエゾン・オフィスに連絡いただいで知ることが可能ですが、企画されている各専攻の内容の魅力をかいつまんで紹介しておきます。

まず、日本画は、人体デッサンを通して本格的に日本画を学びます。油画の講座は、二十世紀美術の巨匠マティスの人物表現をヒントに油絵の制作をしますが、これは実際に大学で行われたカリキュラムの一部です。彫刻の講座は、誰も持っていない自分だけのブロンズ・メダルの鑄造に挑戦するという講座です。時間と体力の勝負という面もありますが、貴重な体験となることは言うまでもありません。版画では、それぞれリトグラフとエッチングの入門講座、これは表現領域の拡大を願っている人には耳寄りな話でしょう。さらには、色彩銅版画という上級技術のノウハウを伝授する講座もあります。構想設計では、デジタル・フォトグラフィーで自分と同じ大きさのタビスリーの制作に挑戦できます。デザインは、3専攻がそれぞれ、ビジュアル・デザインでは、手作りの個性的なカード制作、プロダクト・デザインは、企業で活躍している人のための実践講座、環境デザインでは、専門家と夢をつむぐ自分の住まいといったテーマが、それぞれの専門に即して考えられています。漆工の講座は、お父さんの復権のための親子のベンチ作りと新素材の漆粘土を使った楽しいアクセサリー作り、そして染織では、自分だけのコットン・シャツ作りを楽しむことができます。最後に芸術学では、仏教美術の専門家が、ここだけの話として目から鱗の衝撃の仏教美術解釈を伝授しますし、批評誌作りを通して町の画廊の美術批評に自分でも挑戦することができます。(陶磁器専攻は、今年も、市民公開講座でがんばります。)これらのどこにもない魅力的な講座の締め切りは、それぞれの開始日程の2週間前までとなっています。

ここに挙げた内容は、美術学部の教員の創意工夫のラインナップです。できるだけ多くの人たちにこれらの内容が周知され、できるだけ多くの人たちに参加いただけることを願ってやみません。

京都市立芸術大学サマーアートスクール講座一覧

- 主催 京都市立芸術大学, 京都市立芸術大学芸術教育振興協会
○問合せ先 京都市立芸術大学 教務課(Tel.075-334-2223)もしくはリエゾンオフィス(Tel.075-334-2204)
○会場 京都市立芸術大学(一部講座は学外)
○期間 平成18年7月22日(土)から10月21日(土) *講座毎に開講日時は異なります。

タイトル	担当教員	開催日	時間
京都芸大の日本画に学ぶ-人体デッサン-	竹内浩一 教授 小嶋悠司 教授 他, 本学日本画専攻教員	9月4日~9日	13:00~17:00 (各日4時間 計24時間)
マティスに学ぶ人物画 「コスチューム・デ・オマージュ」	田村光義 教授 渡辺信明 講師 潮江宏三 教授 他, 油画専攻教員 Simon Fitzgerald 助教授	7月24日~28日 (但し7月24日午前 中はレクチャー)	10:00~17:00 (各日6時間 計30時間)
世界にひとつの自分のメダルを作ろう	野村仁 教授 松井紫朗 助教授 他, 彫刻専攻教員	8月1日~7日	10:00~17:00 (各日6時間 計42時間)
リトグラフ入門	出原司 教授 他, 版画専攻教員	7月31日~8月4日	10:00~17:00 (各日6時間 計30時間)
エッチング入門	ヨエルク・シュマイサー教授 他, 版画専攻教員	7月24日~7月28日	10:00~17:00 (各日6時間 計30時間)
銅版画上級(色彩銅版画の魅力)	ヨエルク・シュマイサー教授 他, 版画専攻教員	7月22日, 23日, 29日, 30日	10:00~17:00 (各日6時間 計24時間)
親子で作るデジタルフォトグラフィー	佐野賢 教授 中井恒夫 教授 他, 構想設計専攻教員 砥綿正之 助教授	8月7日~10日	13:00~17:00 (各日4時間 計16時間)
カードは手作りが楽しい!	井上由季子 非常勤講師 向井吾一 教授 滝口洋子 助教授 辰巳明久 助教授 他, ビジュアルデザイン専攻教員	9月4日~6日	13:00~17:00 (各日4時間 計12時間)
プロダクトデザイン活用実践講座	小山格平 教授 塚田章 教授 他, プロダクトデザイン専攻教員 高井節子講師	9月6日, 7日, 12日, 13日	16:00~19:00 (各日3時間 計9~12時間)
住んでいる人が考える, 自身の住まい	池上俊郎 教授 堀口豊太 助教授 他, 環境デザイン専攻教員 藤本英子 助教授	8月6日	10:00~17:00 (6時間)
親子木工教室 親と子の為のベンチ	山中晴夫 教授 戸田ナオ (木工作家) 横田学 助教授 他	8月19日, 20日, 25日, 26日	13:00~18:00 (各日5時間 計20時間)
漆粘土によるアクセサリ作り	望月重延教授 栗本夏樹 助教授 安井友幸 講師	8月19日, 20日, 26日, 27日	13:00~16:00 (各日3時間 計12時間)
“コットンシャツ”を作る	井隼慶人 教授 三橋遵 教授 内藤英治 教授 藤野靖子 講師 ひろいのぶこ 教授	8月21日~26日	13:00~18:00 (各日5時間 計30時間)
仏教美術入門	定金計次 教授 礪波恵昭 講師	8月1日~4日	13:00~16:00 (各日3時間 計12時間)
美術批評誌を作しましょう	渡辺眞 教授 伊東徹夫 教授	8月30, 31日 9月11日, 25日 10月21日	13:00~16:00 (各日3時間 計15時間)

- 申込期間 各講座開催初日の2週間前まで
 ○申込方法 往復はがきに、受講希望講座名、住所、氏名、電話番号、年齢を明記してご送付ください。
 ○宛先 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 京都市立芸術大学 教務課
 ＊申込み多数の場合は、先着順とさせていただきます。(講座毎の最小催行人数に達しない場合、開講しません。ご了承ください。)

開催場所	受講費	受講対象者	定員 (最小催行人数)
2号棟1階 総合基礎C,D	25,000円(材料費・モデル代含む)	大学生, 社会人(初心者は除く)	40名(15名)
2号棟4階 油画制作室2 (初日は本部棟L6集合)	25,000円	25歳以上	25名(15名)
本部棟L9あるいはL10	50,000円(材料費含む)	20歳以上 (全期間参加できる人が対象)	15名(10名)
3号棟2階 リトグラフ工房	35,000円(材料費含む)	18歳以上	10名(6名)
3号棟2階 銅版画工房	35,000円(材料費含む)	18歳以上	10名(6名)
3号棟2階 銅版画工房	35,000円(材料費含む)	銅版画経験者	8名(5名)
大学会館 情報演習室 (初日は大学会館ホールか スタジオ)	27,000円(材料費含む)	幼稚園～小学生とその保護者	20組(15組)
大学会館交流室	15,000円 (テキスト代, 材料費含む)	社会人	40名(15名)
産業技術研究所 工業技術センター	35,000円/1名	中小企業のオーナー又は企画担当者等	20名 (10名(10社))
L2教室および 環境デザイン学部制作室	1名12,000円 + 家族1,000円/1名 最大15,000円/家族	年齢不問・簡単な模型制作が可能なこと	20家族(5家族)
2号棟1階 総合基礎C教室	40,000円(材料費含む)	親子ペア(小学5年生以上)	15組(5組)
2号棟1階 総合基礎D教室	20,000円(金具は実費)	高校生以上	25名(10名)
染織基礎実習室 (初日は本部棟L6他に集合)	30,000円(材料費含む)	社会人	20名(10名)
新研究棟 共同ゼミ室	12,000円	高校生以上	40名(10名)
新研究棟 共同ゼミ室	30,000円(印刷製本代込み)	社会人	25名(15名)



美術学部／保健体育

上英俊

初めて大学を訪れたとき、自然が多く、のんびりした大学だと感じました。その後、体育実技の授業をすすめるうちに、驚く事実が発覚しました。体力テストを実施するために砂場の準備をしようと思いましたが、砂場が見当たりにません。すぐに教えてもらってわかったのですが、砂場に雑草が生えて周りの区別がつかなかったのです。学生の協力により、砂場が確保されて体力テストを終えることができましたが、今後グラウンド拡大作業を続けていくうえで、雑草でない植物まで失ってしまわないかと心配で植物図鑑の購入を予定しております。

しかし、グラウンド全面が草原化しているわけでもなく、3分の2ほどのスペースには、しっかりと地面が見えています。スポーツとは全く異なる芸術の世界でも、身体を動かす楽しさを知っている人がいるのだと、少し安心しました。独りで作業をすすめ、独りでレッスンに取り組むという孤独な環境では、相当大きなストレスを受け、また、身体活動量が低下することから、様々な疾病の発症も心配されます。ストレスをうまく発散しながら、体力をつけて長期にわたる制作活動・発表活動を成し遂げる必要があります。

スポーツを行ううえで雑草は邪魔ものではないかもしれませんが、時には芸術のモチーフとして扱われます。微力ではありますが、精神的にも肉体的にも雑草のようにたくましく、美しい学生生活をすごせるよう、指導に当たりたいと思います。

美術学部オープンキャンパスのご案内

本学の受験を希望する方のために、オープンキャンパスを実施します。どなたでも自由に参加していただけます。(事前申込制)なお、作品持参等の進路相談は行いません。

[実施日] 2006年8月5日(土) 午前11時～(10時30分受付開始)

[実施内容] 午前:講堂での全体説明会 大学の概要説明・入試の概要説明
午後:科別専攻別説明・施設案内・学生作品の展示等

[申込方法]

○ハガキでの申込

参加人数・興味のある専攻(複数可)・氏名(複数の場合は代表者氏名)・

住まいの都道府県・在学(または出身)学校名を記入して期日までに投函してください。*7月10日消印有効

宛先: 〒610-1197 京都市西京区大枝香掛町13-6 京都市立芸術大学教務課 美術学部オープンキャンパス係

○インターネットでの申込

下記URLにある申し込みフォームに必要事項を記入して申し込んでください。*7月10日締め切り

URL <http://w3.kcua.ac.jp/info/opencampus/>

[お問合せ先] 京都市立芸術大学 教務課 TEL 075-334-2220



「京都国際会議2006 芸術がデザインする平和のかたち」のご案内

京都市立芸術大学では、今年の秋、国際会議を開催します。国際会議のテーマは「芸術がデザインする平和のかたち」です。

芸術が目指す平和の価値を今一度見つめ直す機会を認識することができれば、という意図で立案されたものです。

詳細は京都芸大のHP(ホームページ <http://www.kcua.ac.jp>)をご覧ください。多数の御参加を、お待ちしております。

[実施日] 2006年10月6日(金)～9日(月・祝)

[開催場所] 京都芸大内、他